

## 「身近なグリーン・ニューディール」

アメリカのオバマ大統領は、就任直後からグリーン・ニューディールを提唱しています。これは、1929年に始まった大恐慌を克服するために、ルーズベルト大統領が行った一連の経済政策（ニューディール）になぞらえて打ち出された、再生可能エネルギーへの大型投資などを根幹とする環境重視の経済政策です。

二十世紀を通じて進められた工業化と都市化の流れは、化石燃料の大量消費や熱帯雨林の伐採などによる発展過程であり、それによる温室効果ガスの増加が、地球温暖化の主因と言われています。新しい世紀は、その流れを止め、逆転させる発想と行動が求められているのです。

高松市でも、太陽光などの再生可能エネルギーの普及促進や過度に自動車に依存しないまちづくりの推進など、本来的な低炭素社会の構築に向けた取り組みを進めています。それと同時に、市民が、気軽に地球環境問題を意識できるような事業、いわば「身近なグリーン・ニューディール」も広く展開して行きたいと思っています。例えば、中央公園の「芝生化大作戦」や、市内保育所などの「緑のカーテンづくり事業」です。

芝生化大作戦では、高松のシンボルでもある中央公園を緑豊かな元の姿に戻そうと、6月に千人近い市民の皆様に参加いただいて、芝生の植え付けをし、今では青々とした広場がよみがえりました。また、緑のカーテンづくり事業では、ヘチマやきゅうり、ゴーヤなど、つる性植物の苗を窓際に植え付け、生育すれば緑が日差しを遮り、蒸散作用も相まって部屋の温度を下げ、涼しさをもたらす、生きた環境教育となりました。その上、きゅうりやゴーヤを収穫して子どもたちが自ら料理して味わい、食育の面でも大きな役割を果たしたとの報告が、子どもたちの元気な笑顔とともに届いています。

家庭という字は、ハウス（家）・アンド・ガーデン（庭）で成り立っています。また、どんな都市も農村の存在なくしては生き延びていけません。地球環境のためだけでなく、私たちが人間性を回復し、家庭を温かく充実し、都市と農村が共存していくためにも、今こそ身近なところから、緑の新規まき直し（グリーン・ニューディール）が必要だと考えています。